

2015.2.23号

・山梨県砂利組合連合会、富士川河川砂利採取の特採負担金軽減

山梨県砂利組合連合会(44社、井上聡一郎会長)は、主要な資源(原石)確保手段である富士川(釜無川)での特定砂利採取について14年度から第17次計画の採取を進める。年間の採取許可数量は第16次計画の前年度対比横ばいの43万 $\text{m}^3$ で、特採負担金が $\text{m}^3$ あたり100円軽減された。

・四国の産官学で建設関連分野の環境負荷低減を研究

四国地区の産官学で組織する「建設関連分野の環境負荷低減に関する研究会」(会長・堺孝司香川大学元教授)は5日、高松市内の高松サポート合同庁舎で第2回の研究会を行った。経済産業省本省および四国経済産業局のリサイクル担当部署、竹中工務店や鹿島建設が新たに参加。三菱マテリアル直島製錬所は銅スラグ、住友共同電力とゼロテクノ四国は改質フライアッシュ「ホワイトアッシュ」のコンクリート用途での有効利用に向けた課題を提示。こうした副産物利用の利点として、阿南生コンクリート工業は骨材にFAと銅スラグを併用した生コンの乾燥収縮抑制効果を説明した。NEXCO西日本(高松工事事務所および四国支社)や大手ゼネコン、生コン、碎石や混和剤、非鉄や電力など約30人が参加しコンクリートの環境負荷低減に向けた取り組みが発表された。

2015.2.9号

・芝浦工大、東京テクノと再生骨材の品質改善

芝浦工業大学は1月27日、工学部土木工学科の伊代田岳史准教授が再生骨材コンクリートなどを製造する東京テクノ(東京都町田市、松原篤社長)と共同で、二酸化炭素吸着による再生骨材の品質改善効果を実証したと発表した。コンクリートがらを細・粗骨材の大きさに粉碎しCO<sub>2</sub>を吸着させながら中性化促進装置内に1週間静置したところ、吸水率や密度など骨材としての性能が向上したという。伊代田准教授と東京テクノ共同で特許出願中。両者はセメント工場の排煙を利用した技術確立を目指しており、共同研究に加わるセメントメーカーを募集中だ。

・近畿碎石協組各社、4月に積み残し値取りへ

大阪北部の碎石製造業者を中心に組織する近畿碎石協同組合(石田光人理事長)の組合員各社は継続的な価格の適正化を図るため、4月出荷分から生コンなどのユーザーに積み残し分の値上げを要請している模様だ。